中天でオリオンの三ツ星凍てつくよ

寒いベランダから南の空を見上げながら、「あれが三ツ星だよ」と教えてくれたのが誰だったのか、今年も思い出そうとしています。

川口支部長から味わい深い絵を添えて新年の挨拶を、杉村さんから“上海”の続きを、そして葛西さんから綺麗な詩を紹介して頂きました。

年頭ご挨拶　　支部長　川口　直樹

新年おめでとうございます。

損保業界波高しの昨年でしたが、大揺れはまだ続いているようです。

みつわ会も何か出来ることがあれば、お手伝いすることに吝かではないと考えておりますが、その折はよろしくお願いします。

さて今年は猪突猛進の亥年、昨年大分の佐藤さんから折角の家庭菜園が猪にやられたという話を聞きました。

猪はどうも害獣のようですが、東北では猿や熊の被害は聞いても猪が出没した形跡はありません。

岩手のしし踊りは鹿のことですし、マタギが狩るのは熊や鹿、シシ鍋も食べる風習はなく、どうも猪は西の方の生き物かと思っていたところ、先般北上市の博物館で立派な猪の剥製を見ました。

これなら、我が仙台経ケ峰の伊達の聖域ならきっと獣も保護されているに違いないと思いましたが、いたのはムササビと穴熊だけ。

思い立って干支の猪を追いかけましたが、空振りに終わりました。

それにしても流石伊達六十万石の藩祖の御霊屋は往時の姿をそのまま残しており、失われゆく仙台の杜もここでは360年を経た杉の大木の森となって残っておりました。

30mを越す大木の梢には鳶と鴉が霊域を鎮護しておりました。

干支の猪はいなかったけれど、早めに霊廟瑞鳳殿に皆様のご健康とご繁栄を祈願してまいりました。今年も良き年になりますように。

秋田在住で明治 44 年生まれの

“おばあちゃん詩人” 坂本梅子さん

葛西　洋一

「星座へ向う列車」　坂本　梅子

白樺木がくれのホテルの灯は　夜汽車の窓の灯り
高原のホテルは星座へ向う夜行列車
ここは賢治のふるさと
銀河鉄道は敷かれたまま　夜空を走っています
夜更けてまわりの灯が消えると
白樺号発車の汽笛が鳴り渡ります
岩手山の上に月がかかりました
列車は月光の蛇です
青白く尾灯を曳いて夜空を一気に駆け抜けてゆきます
もう姿は見えません
列車はいまカニ座あたりでしょうか
乙女座でしょうか
魚座はわたしの誕生の星座
凍てつく二月満月の夜　青い蛇のまま母なる星座へ旅立ちます
地上に長く住んでしまいましたが　わたしは星のものです
わたしの魂が闇の中で青く光るので　みなそれを嫌いましたが
星のものの性ゆえ　青い光のまま帰りゆかれましょう
わたしが天上の星座へ還りゆく日のため
本当に心からさようならを言える地上の人を
いままでさがしていたのです

（岩手県南八幡平高原）

坂本さんは、秋田県仙北郡中仙町（現大仙市）の老人ケアハウスに暮らす女性です。

平成３年秋田県芸術選文学賞を受賞したことのある人で、家内の友人の姑にあたる方です。　以前河北新報に彼女の作品の書評がのり、それを切り抜いてお送りしたことがありますが、どんな内容であったか全く覚えておらず、詩も読んだ記憶がありませんでしたが、最近頭書の詩がのっている詩集「星座へ向う列車」と「いろはにほへとちりぬるを」の手元にある２冊を読んで見て（歳のせいか）感ずることが多く、ご紹介した次第です。

この詩集の表紙を飾るのは、あのメルヘンチックな谷内六郎の「空飛ぶ列車の絵」と、谷内夫人からの手紙の中に入っていたという「もみじの葉の切り紙」。坂本さんは谷内夫妻との出会いを“人生の奇跡”と呼んでいます。

米寿のお祝いに出版した「星座へ向う列車」の序文で、谷内夫人は次のように言っておられます。

「詩集の出版を坂本様が躊躇っておられた時、私はそれをおすすめしました。それは「星座に向う列車」という詩があまりにも美しい世界をうたい、その透明な空間のなかにキラリと光る魂を見たからです。・・・みんなにも読ませてあげたい・・・そんな思いからです。そしてその時私の頭に浮かんだ一枚の画、さっそく坂本様にお送りしました。その画と星座の詩、表現こそ違っていても作者の心は一つだと思ったからです。今度その画が詩集の表紙を飾ることになりました。ありがとうございます。」

この詩集の中では、息子たちの薦めに見向きもせず、生まれ故郷の自然の美しさを強調し、うたい上げ、老人施設の中にいる人たちの人生に熱い思いをはせる、といった内容が多いが、私が特に惹かれるのは、強情なまでに負けず嫌いの反面、その裏側に寂しさを持った明治の女性に、同じ世代の母の姿を重ねあわせて見るせいかもしれません。

2006 年 12 月

上海滞在雑記-3　　杉村　優

「春節は爆竹と花火がマンションの窓から降ってくる」

その前に、夏の上海は北京と違って湿度１３０％？そのむし暑さと言ったら全く辟易してしまう。人々は夜遅くまで戸外で夕涼みをし、しかも簡易ベッドで外で寝ている人もいる。やはり春の４月、秋の１０～１１月、冬の１２月～３月が動きやすい。冬でも仙台より暖かく雪は降らない。

ところで今回中国の正月で２月１２日の春節に訪れた。イメージとして故里へかえる人達が多くいて、さぞ静かな街になるかと思っていたところ、１３日の夕方７時頃から翌朝６時頃までの３日間、上海中が春節を祝う人々の歓声と爆竹と花火のすさまじいバンバンバリバリの音に驚いてしまった。しかも上海中が煙で霞んで見えなくなる。泊まっているマンションの各棟の１階から３６階までの窓と言う窓から爆竹と花火の雨が振りそそいで来て、見ていると壮観であるが実に危険だ。一晩中続いてとても眠れたものではない。

翌朝散歩に出ると窓の下は勿論、路上には燃え残りの山と火薬の臭いがただよっていた。この爆竹と花火は都市では全面禁止との事を聞いていたが、たんなる噂だろうか？聞くところによると、花火店は３日間で一年分を稼いでしまうとか。又、初詣をしようと思って上海最古の三国時代２４２年呉の孫権が創立したとされる龍華寺に行って見た。善男善女の人ごみと線香の煙で、日本の初詣と変わりはない。いずれにしろ、ちょっとしたエキサイテングな春節であった。　　２００６/１２/３

－－－

――― 今年もひき続き ―――　加藤　徹三

{支部便り}

携わってもう 7 年位になるのでしょうか。

佐々木（勝）さんにお世辞で褒められた当初のものは、今思えば随分と稚拙なもので恥ずかしい限りですが、本人はワードの技を一つ覚える事で精一杯だったのです。

現在は会員の協力を貰いながら、そこそこに見栄えのする“ 作品 ”も中にはあるし、何よりも毎月毎月良く続いているものだと思います。（自画自賛！）

「金に糸目をつける」作業なので、切手を節約するために、小型の封筒を使って三つ折にして入れるのですが、画像に折り目がかからない様なレイアウトを考えたり、大半を占める遠視向きのために、字の大きさや濃さを加減したり、インクを出来るだけ節約する為に画像を無理に明るくしたり、苦労なのか、工夫なのか、或いはそれが楽しみというのか、色々あります。

耐用年数 5 年というプリンターは 8 年目でダウン、柿沼さんが「修理代に少し足せば新品が買える」と言うので購入しました。

旧式のパソコンも、騙し騙しこき使っていますが、最近老衰が顕著です。

いずれは機器も、そして操作する人も交代する時期が必ず来るわけで、その準備をそろそろ始めなければなりません。

{散歩とウォッチング}

夫婦で歩くのは退職以来なので 8 年目になります。始めは歩くだけでしたが、途中鳥を見るのが楽しみになりました。寒い季節でも、むしろ冬枯れの木立では邪魔になる葉がないので、綺麗な冬鳥をゆっくり見ることができます。リスが地面を掘ってクルミを蓄食する動作や、それを掘り出して殻を割る様は、いつまで見ていても飽きません。散歩は当分続けたいです。

{パッチワーク}

これはカミさんの趣味。神奈川県の藤沢にいた頃に始めたので、もう 10 数年になります。カミさんにじっとしていられると、隠居亭主としては落ち着きません。何かに没頭してもらえるのは有難いことです。

数年前までは、年 1 回の展示会で藤沢まで出かけていたのですが、最近は行っていません。作品も壁掛けの観賞用から専ら実用品になって、人に喜ばれている様です。

山形あたりの知り合いの農家にお土産にして、野菜をいっぱいもらってきます。

子育てが一段落した娘にも伝染して、メールで自慢し合っています。

****

10 年前後続けてきて、これが「継続は力なり」などと威張れる事柄なのかどうかは判りませんが、何事も力まず楽しく続けること、そして必ず誰か相手がいる、というところがポイントなのでしょうか。

18 年度忘年会兼ゴルフ部会納会

12 月 21 日 5 時～7 時　於「中華屋食堂麺飯甜」

宿題にしていた 3 分間スピーチでは、さぞかしや反省談が多いだろうと真摯に耳を傾けていたのですが、佐藤（尚）さんや川口さんあたりの、今年は生涯最高スコアが出たので、来年も期待出来るのだという甘い観測や、阿部（義）さんが、さらに高価なパターを買い求めて希望を繋ごうとしている様子など、己の歳も考慮に入れないで、ゴルフの女神様のご機嫌を損ね兼ねない様な発言が目立ちました。

またゴルファー以外でも、佐々木（勝）さんが、俳人芭蕉が詠んだ“句の数”に勝負を挑む、などという大それた抱負や、清和さんが優勝した麻雀大会で、生涯最高のツキに恵まれた話、などを聞いているうちに、そんなこともあるかもしれないと錯覚するのでした。

「女房にせがまれたので、会が終わり次第、寝台特急“北斗星”の個室でチョット札幌まで行ってきます。」という例会幹事千葉（繁）さんのいつものパフォーマンスが、スピーチの“とり”となりました。

結論は、“皆さん元気で明るく前向きで何より”、ということでした。

会場の「麺飯甜」は、きれいでノロウィルスの心配も無く、落ち着いた部屋で、なかなか良い所でした。ここなら仙台駅の構内なので交通の便は申し分なく、椅子の円卓は居心地が良いし、夕食会にも集まりやすいので、例会を今までどおり続けてもいいのではないかなどと、いつもの様に右顧左眄（うこさべん）する幹事の面々ではありました。

初春の盃（はい）を静かに参らせむ父の祝唄（ほぎうた）秋田船方　爽風

―― 1 月の行事 ――

▽幹事会：1 月 12 日（金）4 時～
　・夕食会の件の続きや、避けては通れない葬儀への会としての参列の有り様。
　・5 時から二金会　コーナー集合です。

▽みちのく新春セミナー：1 月 23 日（金）
　・5 時 30 分　仙台ホテル

2 月は支部便りお休みです

1 月の昼食会（新年会）
日時：1 月 18 日（木）12 時～
会場：「しゃぶ禅」TEL222-4040
会費：2000 円
　出欠の連絡を、1 月 12 日までに木村さんまでお願いします。TEL227-2131
※忘年会の時間制限で語り足りなかった方は続きを新年会でどうぞ。